春の三者総会議案書

2005 年度三者事務局

2005 年 3 月 26 日

目 次

1 2005 年度三者センター校からの報告 ['05/03/13 現在] 2

1.1 収入予定 2

1.2 支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載. 2

1.2.1 各三者役職校の支出 3

1.2.2 各パート役職校の支出 3

1.3 諸連絡 4

2 2005 年度三者準備校 (大阪大学) 4

2.1 活動報告 5

2.2 今後の活動予定 5

2.3 夏の学校時間割 5

2.4 本年度の参加費 5

3 DC アブストについて：京都大学 谷口億宇 6

3.1 はじめに 6

3.2 議案 6

3.3 議案の説明及び提案 6

1　2005 年度三者センター校からの報告　　[’05/03/13 現在]

文責：佐藤隆一 (東京工業大学)

2005 年度三者センター校から, この春までに行ってきた援助・協賛申請の結果, 及び, 2005 年度夏の学校の修正予算案を報告する. 後者に関しては, 三者総会による承認を求める.

1.1　収入予定

(1) 前年度繰越金: ¥1,489,544 (確定)

(2) 参加費 (参加者が 300 名の場合) : ¥3,000 × 300 = ¥900,000 (予定)

(3) 外部団体への援助・協賛申請 (内訳は下表) : ¥950,000 (確定)

団体名	申請内容	申請額	結果
素粒子論グループ	旅費補助	450,000	承認
基研	講師旅費・ポスター印刷費*	500,000	承認
RCNP	協賛*	0	承認
原子核談話会	協賛*	0	本学会で交渉
高エネルギー研究者会議	協賛*	0	申請中
申請額合計		950,000	

⋆ 基研からの援助は講師旅費とポスター印刷費を合わせて 50 万円.
また, ポスター印刷費は実際にかかった費用のみが支払われる.

収入合計：(**1**) + (**2**) + (**3**) = ¥3,339,544 ≃ **334 万円**

∗『協賛』とは, 三者の配布する夏の学校の宣伝ポスターに『 ~ 協賛』の文字列を入れること, 及び機関紙等において夏の学校の宣伝をさせて頂くことを許可して頂いたという意味である.

1.2　支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載.

役職校	担当大学	今年度申請額	前年度決算額
三者センター校	東工大	3,000	1,410
三者事務局	名古屋大	4,000	0
三者準備校	大阪大	457,700	184,472
三者名簿校	茨城大	0	0
三者 HP・ML 校	千葉大	0	0
素粒子パート事務局	茨城大	0	0
素粒子パート準備校	新潟大	19,000	24,020
原子核パートセンター校	大阪市立大	0	0
原子核パート準備校	新潟大	10,080	10,004
高エネルギーパート準備校	東邦大	5,000	3,760
講師旅費		-	83,650
ポスター印刷費 (上限 10 万円)		100,000	72,500
学生旅費補助		-	1,439,570
次年度繰越金		-	1,489,544
計		-	3,308,930

1.2.1 各三者役職校の支出

- 三者センター校 (東京工業大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
振込手数料	3,000	780
アンケート郵送費	0	630
旅費 (基研)	0⋆	0
計	3,000	1,410

⋆ 基研からは旅費が 1 人分しか出ないので, 基研へ 2 人行く場合, 2 人目の分を三者から負担する.

- 三者事務局 (名古屋大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
コピー代	4,000	0
計	4,000	0

- 三者準備校 (大阪大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
下見・交通費	0	14,010
施設使用料金	207,700	65,400
コピー代	120,000	20,320
文具代	30,000	9,462
通信費	30,000	25,000
郵送費	40,000	32,800
払い出し手数料	30,000	17,480
計	457,700	184,472

1.2.2 各パート役職校の支出

- 素粒子パート
  - 素粒子パート準備校 (新潟大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
録音関係費	12,000	13,678
通信費	2,500	7,930
消耗品代	2,500	934
研究会費	2,000	1,478
計	19,000	24,020

- 原子核パート
  - 原子核パート準備校 (新潟大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
原子核研究への原稿郵送料	580	580
各投稿者への原子核研究と別刷の郵送料		
340 円 (冊子小包) × 25 人	8,500	8,500
文房具代	1,000	924
計	10,080	10,004

- 高エネルギーパート
  - 高エネルギーパート準備校 (東邦大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
文房具代	5,000	3,760
計	5,000	3,760

1.3 諸連絡

口座開設のお願い: 三者センター校から各役職校への振り込みは郵便口座 または 銀行口座を通じて行います. そこで, 各役職校にはいずれかの口座を開設して頂くことになります. なお, 郵便口座の方が振り込み手数料が (かなり) 安いらしいので, 特に理由のない限り, 郵便口座の開設をお願い致します.
なお, 個人ではなく「団体」の名義の口座を開設する場合には「規約」の提出を求められます. 2004 年度三者センター校 (東大) が作成された「規約」の見本がありますので, 必要であれば差し上げます.

領収書の保管のお願い: 会計監査をきちんと行うため, 各役職校の方には夏の学校の決算時に領収書を提出して頂きます. (提出方法は決算時にお知らせします.) そのため, 領収書をきちんと保管しておいて下さい.

留意点;

- 領収書の形式; 領収書の形式は以下のようにして下さい. これ以外のものは基本的に認めません.
  - 宛名書;『原子核三者若手』
  - 但し書;「ビデオテープ代」「封筒代」などできるだけ具体的に. 「品代」は不可.
- 領収書のない支出は基本的に認められません. 領収書は決算時まできちんと保管しておいて下さい.
- 監査の際の混乱を避けるため, 予算で別項目になっている支出はできる限り別々の領収書を取るようにして下さい.
- コピー代を請求する場合には, コピー代もきちんと領収書を取っておいて下さい. 振込手数料や郵送料については受領証 (もしくはそのコピー) を提出して下さい.
- その他, どうしても領収書が取れそうにない場合など, 不明な点があれば

  東工大; yonupa-heihei@th.phys.titech.ac.jp

  までお問い合わせ下さい.

講師旅費辞退の交渉について: 参加者の旅費補助にできるだけ多額のお金をまわせるよう, 夏の学校の講師の方々には, 可能な限り, 旅費等を自身の研究費からまかなってもらう交渉を行っております. 混乱を避けるため, 例年, この交渉は三者センター校が一括して行ってきたようです. 本年度もこの習慣を踏襲しようと考えておりますので, 各講義録校の方はそのことをご承知下さい.

2 2005 年度三者準備校 (大阪大学)

文責: 津村 浩二

2.1 活動報告

1. 2005 年度の夏の学校について

   - 日程
     2005 年 8 月 6 日 (土) ~ 8 月 11 日 (木) の 6 日間
     (高エネルギーパートは 10 日 (水) までの 5 日間)
   - 開催地
     独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター
     (東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号)
   - 料金
     - 宿泊 (単価)：1,150 円
     - 朝食 (単価)：490 円
     - 昼食 (単価)：640 円
     - 夕食 (単価)：690 円

     合計 1 日：2,970 円

     ※ 構内 “国際交流棟 レセプションホール” での立食形式のパーティーを予定。

2. 日本物理学会へ協賛の申請

   - 昨年度に引続き、日本物理学会に三者若手夏の学校の協賛を申請中である。

2.2 今後の活動予定

1. ポスター、パンフレットの作成・配布
   5 月 ~ 6 月にポスター及びパンフレットを各研究室に送付する予定である。

2. ホームページの作成
   5 月 ~ 6 月に設置予定である。

2.3 夏の学校時間割

	朝の部 (8:30 ~ 12:00)	昼の部 (13:00 ~ 17:00)	夜の部 (18:00 ~ 22:00)
初日 (6 日)	–	–	開校式
2 日目 (7 日)	講義 (1)	研究会 (A)	パート総会
3 日目 (8 日)	講義 (1)	研究会 (B)	懇親会
4 日目 (9 日)	講義 (2)	三者企画	三者総会
5 日目 (10 日)	講義 (2)	講義 (3)	研究会 (C)
6 日目 (11 日)	講義 (3)	–	–

2.4 本年度の参加費

昨年度までと同じく参加費を 3,000 円を予定している。

3 DCアブストについて : 京都大学　谷口億宇

3.1 はじめに

三者若手夏の学校 (以下「夏の学校」) センター校が中心となってまとめている「DC アブスト」が投稿者の減少 ('04 秋の学会・議案書) 等により存在意義を失いかけている。'04 秋の学会では DC アブストの呼称を変更することでその意義を理解しやすいものにしようとの議案が提出されたが、議論は深まらなかった。それはそもそも DC アブストの目的がはっきりしていなかったせいだと考える。現在は DC アブストは、自分または研究グループの研究紹介と位置付けられ、体裁は自由 ('04 秋の学会・議案書) とされており、素粒子論グループ発行の「素粒子論研究」に投稿されている。しかし、これではあまりに位置付けが曖昧である。本議会で、DC アブストの目的を明確にし、さらに呼称を定め、今後の運営について議論したい。また、DC アブストを存続させるに足る目的がない場合は、廃止することが適当だと考える。

3.2 議案

具体的な議案は以下の通りである。

1. DC アブストの目的及び存続させるか否か
2. DC アブストの呼称
3. DC アブストの運営

3.3 議案の説明及び提案

1. DC アブストの目的及び存続させるか否か

   まず DC アブストの目的をはっきりさせることが重要である。目的がはっきりすればそれにふさわしい名称や運営方法もおのずと決まるはずである。

   DC アブストの目的として、以下のようなものが考えられる。

   (a) 夏の学校の研究会報告
   (b) 夏の学校に限定せず、自分の研究の紹介
   (c) 自分達の研究室の紹介
   (d) 廃止

   - (1a) だが、夏の学校の後援団体である素粒子論グループの機関誌に投稿する内容としては最も自然である。しかし、原子核パートでは既に夏の学校の協賛団体である原子核談話会と深い関わりを持つ (最近まで機関誌として位置付けられていた)「原子核研究」に研究会報告を投稿している。したがって、(1a) とする場合は、素粒子研究会は「素粒子論研究」に投稿し、原子核パート研究会は「原子核研究」に投稿するか、原子核パートに了解をとった上で全ての研究会報告を「素粒子論研究」に報告するかを議論する必要がある。なお、夏の学校の協賛団体の高エネルギー物理学研究者会議の機関誌に「高エネルギーニュース」があるようだが、それが高エネルギーパートの研究会報告を投稿する雑誌として適当であるかは不明である。
   - (1b) だが、これは三者若手の活動として「素粒子論研究」に投稿するものとしては大いに疑問である。個人の研究は個人として投稿するのが適当である。

- (1c) に関しては、「素粒子論研究」に投稿する内容としては不適当である。ウェブ上に載せるまたは三者若手名簿の巻頭または巻末にまとめるのが適当である。
- もしも以上の活動が存続に足るものではないと判断される場合は (1d) 廃止が適当である。

2. DC アブストの呼称

   呼称は、(1a) ならば「三者若手夏の学校 (素粒子論パート)・研究会報告」、(1b) ならば「三者若手・研究紹介」、(1c) ならば「研究室紹介」などが適当だと考える。繰り返しになるが、(1b) の場合は三者若手の活動とすることが、(1c) の場合は「素粒子論研究」等に投稿すること自体が不適当だと考える。

3. DC アブストの運営

   運営 (とりまとめ) については、(1a) ならば全ての研究会報告をまとめて投稿する場合はセンター校が、パートごとに別の雑誌に投稿する場合はパート準備校が行うのが適当である。(1b) ならば三者若手の活動と位置付けるのはやめて、個人で投稿するべきである (実質的には (1d) 廃止)。(1c) ならば春の名簿作成時に個人の自己紹介と同時に集めるのが適当である。